

海洋医療学会 の提案

Japanese Society for Marine Medicine

文責：奥寺@富山大学

世界で有数の海岸線を持つ我が国において、病院前救急医療の観点から海洋救急医療について学問的に検討する会が必要であると考えます。

まず病院前救急医療からみると、その主力であるドクターカーによる医療活動は日本病院前救急診療医学会において、またドクターヘリの医療活動は日本航空医療学会において学術的に検討され様々な取りまとめや提言が行われています

(たまたま、昨年の両方の学会の会長を拝命し勉強したことで本提案をする契機となっています)

提案の背景

本提案の背景です

ドクターカーは当時、消防庁の試験事業であった松本広域ドクターカーが、たまたま1994年の「松本サリン事件」に出動し「医師の現場出場」が行われたことが先行例となっています

ドクターヘリは、小濱先生が、1990年頃より試行されていた救急用ヘリコプターへの医師搭乗から、1994年に有志による日本エアレスキュー研究会が発足し、これに賛同者が増え、2000年に現在の日本航空医療学会となり、全国都道府県へのドクターヘリ事業が展開され、現在に至っております

現在の、救急艇社会実装協議会は、私が参加していた発足当時の日本エアレスキュー研究会と等しいイメージで捉えることができ、この先に日本海洋医療学会（仮称）が位置する可能性は大きいと思います。これは海洋国日本の災害医療の未来を考え救急艇の日本各地への配備を提案している日本モバイル・ホスピタル・インターナショナルの構想とも一致するものと考えます

国内の既存の学会との位置関係

日本海洋医療学会（案）の既存の学会との位置関係を整理いたします

まず、上位に位置する日本海洋学会 The Oceanographic Society of Japan は、1932年から開催された海洋学談話会を母体とし、1941年に創立、1948年より戦後活動を再開し、機関紙 the Journal of Oceanographyは SpringerよりWeb journal として発行されています

この日本海洋学会が、2019年に富山大学で開催されたおりに、日本臨床高気圧酸素・潜水医学会(JACHOD)で、開発した海洋医療初期対応研修 ICMM: Immediate Care for Marine Medicine について2つの演題を発表したところ、医療からの発表が初めてであったようで、大いに評価され、東京大学海洋教育センターも医療関連のプログラムが欠損しているため、様々な宿題をいただきました

国際的にみた学問的な位置関係

国際的には、様々な教科書や学会を調べたところ、 Wilderness Medicine のTextbook に
下記のような Marine Medicine の章があります



2-Volume Set

Auerbach's Wilderness Medicine, 2-Volume Set 7th Edition

Authors: Paul Auerbach, Tracy Cushing, N. Stuart Harris

Hardcover ISBN: 9780323359429

eBook ISBN: 9780323396097

eBook ISBN: 9780323377577

Imprint: Elsevier

Published Date: 19th October 2016

Page Count: 2848



PART 10

Marine Medicine

- 69 Drowning and Submersion Injuries 1530**
JUSTIN SEMPSROTT, ANDREW C. SCHMIDT, SETH C. HAWKINS,
AND TRACY A. CUSHING
- 70 Safety and Survival at Sea 1550**
CHARLES G. HAWLEY AND MICHAEL E. JACOBS
- 71 Diving Medicine 1583**
KAREN B. VAN HOESEN AND MICHAEL A. LANG
- 72 Hyperbaric Medicine 1619**
KAREN B. VAN HOESEN
- 73 Injuries from Nonvenomous Aquatic
Animals 1636**
PAUL S. AUERBACH, GEORGE H. BURGESS,
AND ALEXANDRA E. DITULLIO
- 74 Envenomation by Aquatic Invertebrates 1679**
PAUL S. AUERBACH AND ALEXANDRA E. DITULLIO
- 75 Envenomation by Aquatic Vertebrates 1721**
PAUL S. AUERBACH AND ALEXANDRA E. DITULLIO
- 76 Aquatic Skin Disorders 1743**
EDGAR MAEYENS JR AND SARAH A. WOLFE
- 77 Seafood Toxicoses 1766**
ALICIA B. MINNS, MICHAEL J. MATTEUCCI, BINH T. LY, AND
RICHARD F. CLARK
- 78 Seafood Allergies 1794**
ASHLEY R. LAIRD

国際的にみた学問的な位置関係

この章は、300ページ近い量があり、章立てでは

PART 10

Marine Medicine

- 69 Drowning and Submersion Injuries 1530
JUSTIN SEMPSROTT, ANDREW C. SCHMIDT, SETH C. HAWKINS,
AND TRACY A. CUSHING
- 70 Safety and Survival at Sea 1550
CHARLES G. HAWLEY AND MICHAEL E. JACOBS
- 71 Diving Medicine 1583
KAREN B. VAN HOESEN AND MICHAEL A. LANG
- 72 Hyperbaric Medicine 1619
KAREN B. VAN HOESEN
- 73 Injuries from Nonvenomous Aquatic
Animals 1636
PAUL S. AUERBACH, GEORGE H. BURGESS,
AND ALEXANDRA E. DITULLIO
- 74 Envenomation by Aquatic Invertebrates 1679
PAUL S. AUERBACH AND ALEXANDRA E. DITULLIO
- 75 Envenomation by Aquatic Vertebrates 1721
PAUL S. AUERBACH AND ALEXANDRA E. DITULLIO
- 76 Aquatic Skin Disorders 1743
EDGAR MAEYENS JR AND SARAH A. WOLFE
- 77 Seafood Toxidromes 1766
ALICIA B. MINNS, MICHAEL J. MATTEUCCI, BINH T. LY, AND
RICHARD F. CLARK
- 78 Seafood Allergies 1794
ASHLEY R. LAIRD

- 69 溺水
- 70 海洋における安全と生存
- 71 潜水医学
- 72 高気圧酸素医学
- 73 非毒性海洋生物による傷病
- 74 毒性無脊椎動物による傷病
- 75 毒性脊椎動物による傷病
- 76 海洋皮膚障害
- 77 シーフードの毒性学
- 78 シーフードアレルギー

となっています

救急艇社会実装協議会は70の部分に位置します

JACHODのICMM ver.1は、71 72 73 72 75
76の章の内容を網羅しております

今後の方向性（私的考察）

救急艇社会実装協議会は、かつてのエアレスキュー研究会は日本航空医療学会に発展したように、日本海洋医療学会（仮称）に発展する可能性があり、またその必然性があると思います

日本海洋医療学会の学術コンテンツに、（少なくとも）日本高気圧酸素・潜水医学会 JACHODの内容は、包括されます

ここで、将来的には、JACHODの改変や吸収、合併などの検討も必要なのかもしれませんが

これはJACHODにおいて今後、議論される課題と考えます